

## 企画展示開催要項

### 1 名称

秋季企画展「島崎藤村と大磯を愛した文人たち」

### 2 担当者

富田（主担当）・伊藤・北水

### 3 趣旨

島崎藤村生誕 150 年を迎えるにあたって、郷土資料館が所蔵する島崎藤村関係の資料を展示し、島崎藤村と大磯町に居住した文人たちの交流を紹介する。島崎藤村をテーマとする企画展は、昭和 63 年（1988）に郷土資料館が開館した際に実施した特別展以来、34 年ぶりとなる。その間に収集、整理した資料を公開し、郷土資料館が所蔵する貴重な資料を広く活用することも目的とする。

### 4 内容

郷土資料館が所蔵する島崎藤村関係資料や寄託資料の菊池重三郎関係資料を中心に、島崎藤村の大磯での暮らしや、他の文人たちの交流を紹介する。

#### (1) 島崎藤村

壁面 2 にて、島崎藤村の業績を紹介する。年譜を設置し、主な作品（『若菜集』『破戒』『春』『家』『夜明け前』など）の解説を交える。大磯に居住する前の、明治 5 年（1872）誕生から昭和 16 年（1941）までを対象とする。主な展示資料は、書「千曲川旅情のうた」（受入番号 2012-0603 など）、雑誌『処女地』（受入番号 1992-0416）、島崎藤村肖像写真（馬籠藤村記念館蔵）など。

(2) 大磯での暮らし

展示ケースB及び昇降台にて、昭和16年(1941)に大磯に借家して以降2年間の生活を紹介します。当時の町屋園の写真や愛用品を展示し、大磯の住まいで執筆にとりかかり、絶筆となった『東方の門』を解説する。主な展示資料は、菊池重三郎関係資料(寄託17)、島崎藤村関係資料(受入番号1995-1105、2016-0103)。

(3) 菊池重三郎との交流

大磯に暮らしていた作家の菊池重三郎は、天明愛吉と共に藤村に大磯を紹介し、藤村が大磯に住まいを移してから、最も交流を持っていた。菊池と天明が藤村に大磯を紹介したエピソードや、菊池と藤村の故郷である馬籠とのつながり、馬籠における藤村記念事業について、展示ケースAにて紹介する。主な展示資料は、菊池重三郎関係資料(寄託17)。

(4) 文人たちの交流

関東大震災後の大磯には、多くの文化人が別荘を構えるようになり、島崎藤村や菊池重三郎が大磯に暮らした頃は、様々な文化人が集っていた。彼らの交流を、菊池重三郎関係資料にある書簡などから紹介する。対象とする文化人は、有島生馬、坂西志保、矢代幸雄、獅子文六、中勘助を予定。設置場所は壁面1、主な展示資料は菊池重三郎関係資料(寄託17)、千曲川旅情のうたの扁額(受入番号2021-0603、大内館旧蔵)、有島生馬書(受入番号2021-1201)など。

(5) 濱谷浩と島崎藤村

大磯で暮らした写真家の濱谷浩は、島崎藤村の詩に基づいて撮影した馬籠の風景などの作品を遺している。濱谷浩の業績を紹介し、藤村に関わる作品を壁面1に展示する。展示にあたっては、濱谷浩写真資料館に御協力いただく。

## 5 会期

令和4年10月22日（土）～12月11日（日）

## 6 場所

郷土資料館 企画展示室

## 7 刊行物

図録（A4判、本文40頁前後）を作成する。教育普及・企画展事業の印刷製本費から支払う。

## 8 関連企画

### (1) 展示解説

10月30日（日）、11月13日（日）、11月27日（日）、いずれも午後2時から30分程度を予定として、展示担当者が実施する。

### (2) 講演会

企画展のテーマに関連する講演会を開催する。詳細は、別途、要項を定める。

### (3) その他

展示解説及び講演会の実施については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に応じて、中止も含めた実施内容の変更を検討する。

## 9 広報

### (1) チラシの配布

### (2) 広報「おおいそ」への掲載

### (3) ホームページとブログでの周知